

製品名: AP-1 (リン酸化 Ser63) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04235**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	39-42kDa

抗原情報

遺伝子名	JUN
別名	JUN; Transcription factor AP-1; Activator protein 1; AP1; Proto-oncogene c-Jun; V-jun avian sarcoma virus 17 oncogene homolog; p39
遺伝子 ID	3725.0
SwissProt ID	P05412
免疫原	抗血清は、Ser63 のリン酸化部位周辺のヒト c-Jun 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

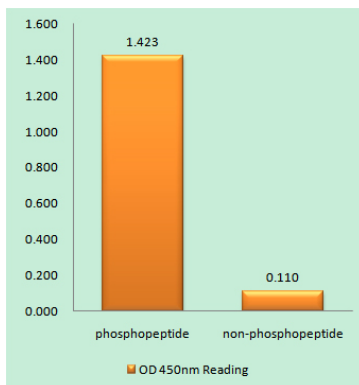
背景

この遺伝子は、鳥肉腫ウイルス 17 の推定形質転換遺伝子です。ウイルスタンパク質と非常に類似したタンパク質をコードし、特定の標的 DNA 配列と直接相互作用して遺伝子発現を制御します。この遺伝子はイントロンを持たず、ヒト悪性腫瘍における転座と欠失の両方に関連する染色体領域である 1p32-p31 にマッピングされています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: エンハンサーヘプタマーモチーフ 5'-TGA[CG]TCA-3'を認識して結合する転写因子。 ,PTM: リン酸化により転写活性が増強されます。PRKDCによってリン酸化されます。 ,類似性: bZIP ファミリーに属します。 ,類似性: bZIP ファミリーに属します。 Jun サブファミリー。 ,類似性: 1つの bZIP ドメインを含みます。 ,サブユニット: FOS または BATF3 のいずれかとのヘテロ二量体。 HIVEP3 と相互作用する (類似性による)。 SMAD3/SMAD4 ヘテロダイマーと相互作用する。 MYBBP1A、SPIB、TCF20 と相互作用する。 COPS5 と相互作用し、間接的にそのリン酸化を引き起こす。 DSIPI と相互作用し、この相互作用は活性型 AP1 の標的 DNA への結合を阻害する。

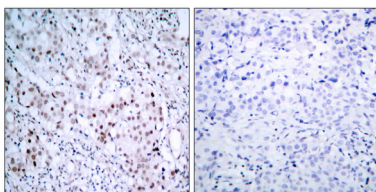
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ErbB_HER;WNT;WNT-T CELL 接着 斑;Toll_Like;T_Cell_Receptor;B_Cell_Antigen;Neurotrophin;GnRH;Helicobacter pylori 感染における上皮細胞シグナル伝達;がんにおける経路;結腸直腸がん;腎細胞がん;

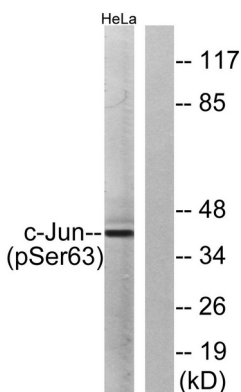
画像データ



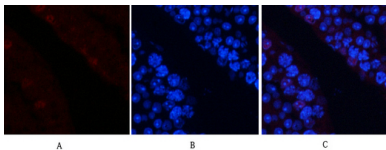
c-Jun (リン酸化 Ser63) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



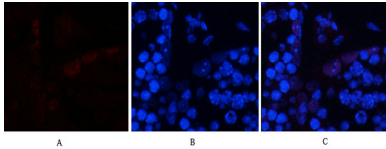
c-Jun (リン酸化 Ser63) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



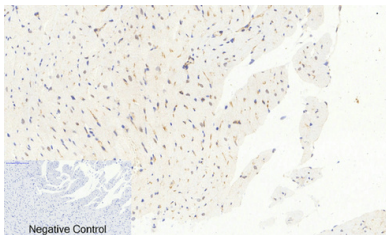
UV 処理した HeLa 細胞ライセートの c-Jun (リン酸化 Ser63) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



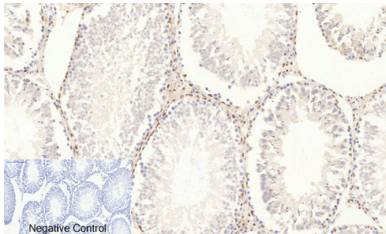
マウス精巣組織の免疫蛍光染色。1, AP-1 (リン酸化 Ser63) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



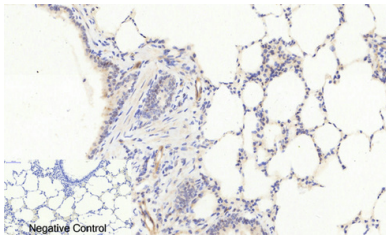
マウス精巣組織の免疫蛍光染色。1, AP-1 (リン酸化 Ser63) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



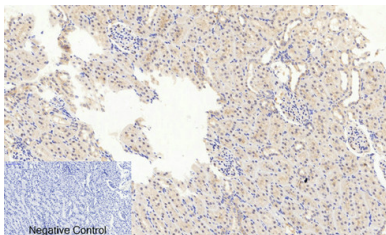
パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. AP-1 (リン酸化 Ser63) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット精巣組織の免疫組織化学染色。1. AP-1 (リン酸化 Ser63) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. AP-1 (リン酸化 Ser63) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. AP-1 (リン酸化 Ser63) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。